

取組の名称等
令和元年度もりの学舎ようちえん



取組の内容

1 森の危険ないきものを紹介するなど、自然に親んでもらうところからスタート
(5月)

2 生きものにふれる、森にある物を使った工作、森にあるドングリや栗などをつかった料理、たき火などにより、四季を通じた自然体験を行う
(7月～1月)

3 まとめ
(3月)

■令和元年度もりの学舎ようちえん

- 平成28年度から4歳以上の未就学児向けにもりの学舎で実施している事業。
- 全6回のプログラムは、もりの学舎の環境を活かし、大人と子供と一緒に自然やいきものとふれあうことができる内容である。

ねらい

四季を通じて自然を体感し、親んでもらう。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ(きっかけ)とする。

工夫

「ハチさん飛んできた！」
…スタッフがハチ役となり、楽しみながら、何度も声かけをして対処方法を覚える。
ゲーム化

「森のお弁当作り」
…自ら探してきたお気に入りの自然物を食べ物に見立て、子どもの想像力をかきたたせる。
共感・納得
見守り

「森の木を使ったスプーン作り」
…森で自ら切り出した木を使うことで、スプーンに愛着を持ってもらい、家でも自然体験をしたことを思い出して、家族で森について話してもらおう。
本物体験

「もりのおもいでさんぽ」
…森をみんなで歩くことで、これまでの活動を振り返りつつ、自然への興味をさらに高め、発見する楽しみを体感してもらおう。
見守り



学習者の状況

自然体験をほとんどしたことがない。
保護者が子どもに自然体験をさせたくても、やり方が分からない方が多い。

学習者の反応



ハチは怖いけど、楽し～い！



木の枝がハシみたい！
この石はおにぎりに見えるね！

学習者の反応



この木はこんな使い方ができるんだ！
スプーンかわいい～！

学習者の反応



また森に遊びに来たい！
虫や、植物など、好きなことが増えた！

学習者の変容


【保護者へのアンケート結果より】
[当日アンケート結果より]
・普段なかなかできない体験ができて楽しめた。
・新しい発見があった。ぜひ人にもすすめてほしいと思った。
[半年後アンケート結果より]
・どんぐりや植物を拾うなど、興味をもつようになった。
・初めて見る鳥、虫に出会うと、図鑑で調べるようになった。
(子どもの行動や発言についてわかるほどの変化を約90%の保護者が感じていた。)

成果指標


四季を通じて自然を体感し、親しむことができたか。
自然に親しむことで、自然の大切さについて考える動機づけ(きっかけ)ができたか。

学習の効果&主に育まれる力


森に入るときに注意することを学ぶことで、安全な過ごし方を知ってもらうことができる。
自ら探してきたお気に入りの自然物を使って遊ぶことで、自然に親しむことができる。



自然物にふれ、それを活用して道具を作ること、活動以外の日も自然について考えることができる。



森の中で自由にすごしていただき、森についての思い等を参加者同士で共有することで、また森に来たいと思ってもらえることができる。



成果と課題

【成果】
・四季を通じ、工夫を凝らした自然体験の場を提供することで、自然に親んでもらうことができた。
・本事業参加後、子どもの自然体験の回数の増加や継続が見られた。
・自然に関する子どもの行動や発言に変化が表れ、自然の大切さについて考えるきっかけとなったと考えられる。
【課題】
・参加できる人数に制限がある。

取組の名称等
令和2年度プラザ環境学習講座



ねらい
自然、いきもの、ごみ、水、地球温暖化などの環境問題について、体験型の学習講座を通して理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげてもらう。
学習したことを家族や友達に話すことで、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとする。

学習者の状況
環境問題について聞いたことはあるけど、詳しくは知らない。
知識はあるが、「エコアクション」にまで結びついていない。
そもそも環境問題について聞いたこともない。

成果指標
環境問題について理解を深め、環境を守るために自分たちに何ができるかを考え、自身の行動につなげることができたか。
学習したことを家族や友達に話し、日常生活の中で行う地球にやさしい行動「エコアクション」を広めるきっかけとなったか。

取組の内容

1 導入
いま地球上でどんな問題が起きているのか、また、何が原因なのかについて伝える。

2 展開
簡単な実験や工作などを行い、体験を通して環境問題についてより分かりやすく伝える。

3 ふりかえり
学んだことをふりかえり、普段の生活の中で自分にできることを考え、発表し、共有する。

工夫
写真や映像を使って説明することで、現実には起きている問題をイメージしやすくする。
身近で考えられる問いかけ（例「朝起きてから今の時間までに何に水を使ったか？」など）やクイズを交えながら、環境問題は身近な問題であることを知ってもらう。
普段体験できないような内容の実験や工作など、印象に残る体験をし、環境問題への関心をより高める。
見たり、聴いたり、触ったり、感じたりして体感することで、驚きや発見を生み、環境問題のしくみ（水がなぜよごれるのか）等をより分かりやすく自分事として捉えやすくする。
講座で学び、体験したことをふり返り、行動につなげるため、「わたしたちにできることは何か？」と問いかけて発言を促し、皆で共有することで、多くのエコアクションがあることに気づき、行動意欲につなげる。
最後に、「帰ったら、家族や友達に今日学んだことを話してね」と呼びかけることで、家庭や地域へ環境を守る行動「エコアクション」が広まるようにする。

見守り
ゆさぶり
驚き・感動
本物体験
共感・納得
成果実感

学習者の反応
「地球上にある水のうち、私たちが使える水って、ほんの少しなんだ」
「カメや鳥などの生きものが、ポイ捨てされたプラスチックのせいで苦しんでいてかわいそう」
「よごれた水がきれいになった」
「環境にやさしいLED ランプが作れて楽しかった」
「勉強なのに、作ったり、ゲームをしたりして楽しかった」
「水や電気のむだ使いをしない」
「ごみのポイ捨てをしない。ポイ捨てをしている人がいたら注意する」
「家に帰って、家族に話す」
「またあいち環境学習プラザに来たい」

学習の効果&主に育まれる力
環境問題が身近な問題であること、世界中で様々な環境問題が起きており、多くの人や生きものが困っていることを実感しながら、自分たちの生活との関係に思いを巡らすことができる。
体感
理解
共働
探究
活用
体感することで、好奇心を高め、さらに、こうしたらどうだろう、もっと知りたいという探究心が高まる。
自分にできることは何かを考えて気づくことができる。
他の人の意見を聞くことで、自分では気づかなかった、環境を守るためにできることがたくさんあることに気づくことができる。
学んだことを話すことで家庭や学校、地域でのエコアクションを広めるきっかけとなる。
体感
理解
共働
探究
活用

令和2年度プラザ環境学習講座
・あいち環境学習プラザにおいて、主に小学生向けに、地球温暖化、生物多様性、水やごみなどの環境問題について、実験や工作を交えた体験型の学習講座を実施。



学習者の変容
【児童へのアンケート結果より】
・いま起きている地球の問題やごみによる生きものへの影響などが良く分かった。
・環境を守るためにどうしたら良いか分かった。
・楽しく環境のことを知ることができて、見るだけでなく、行動に移したいと思った。家の人にも教えたいと思った。
・地球のことを考えて生活しようと思った。
【依頼者（教師等）へのアンケート結果より】
・具体的な行動目標をもつ子どもがふえた。
・帰りの道でゴミを拾っている児童がいた。
・環境からSDGsに目を向け、自分たちなりの取り組みを考える学習をしていこうと思う。

成果と課題
【成果】
・環境問題は身近な問題であることを理解してもらい、自分たちにできることを考え、行動に移す意欲を育むことができた。
・学習したことを家族や友達に話し、家庭や地域にエコアクションを広めるきっかけづくりができた。
【課題】
・講座で学んだことを行動に移せているのか、継続的に行動できているのか把握することが困難。

取組の名称及び概要
令和2年度高校生環境学習推進事業

あいちの未来クリエイティブ部



取組の内容

- 1 キックオフミーティング(オンライン)で、活動のオリエンテーションや今後に関与する講義を受講(6月)
- 2 具体的な調査・研究内容を検討、シートに記入(6月)
- 3 専門家の支援を受けてフィールド調査やデータ分析等の調査・研究(7月~12月)及び調査研究発表会(12月)を実施
- 4 調査・研究等の成果を基に、誰に何を伝えたいか話し合い、意見をまとめ環境学習教材を作成(12月~3月)

令和2年度高校生環境学習推進事業

・高校生が、専門家の支援を受けて地域の環境問題に関する調査・研究を行い、その結果を基に環境学習教材を作成するとともに、その教材を活用・普及する。

ねらい

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育む。
- ・高校生が仲間とともに自分達で考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育む。

工夫

- アドバイザーや講師から、伝えたいことをわかりやすく他者に伝えるコツや話し合いのコツについて講義を受け、活動を始める際の準備にする。
- 質疑応答の時間を設けて発言を求めることで、オンラインでも積極的に参加できるようにする。 **共感・納得**
- ワークシート等でファシリテーターがサポートしつつ、高校生中心で考えるようにする。 **見守り**
- 高校生が主体的に調査・研究を行えるよう、テーマに沿った専門家が必要に応じて助言を行う。 **共感・納得**
本物体験
驚き・感動
- 調査・研究を振り返り、活動内容の理解をより深めるため、成果を披露する発表会を実施する。 **成果実感**
- 調査・研究等で得た知識を基に、伝える対象・内容を明確に意識して教材の作成を進められるよう、ファシリテーターが支援を行う。 **見守り**



学習者の状況


- ・環境への興味や活動レベルは様々である。
- ・顧問の指導に従い、活動に対して受け身の態度の生徒が多い。

学習者の反応


最初は何をするか不安だったけど、講義を受けて今後活動していく中のポイントがわかった！

講義の内容を消化して、質疑応答の時間に質問することができた！


どのような内容でこれから調査・研究を進めて行こうかな・・・




川の環境を体感！色々な生きものがいるんだ！
【愛知県立豊田高校】



ミツバチの働きが私たちの暮らしや地域とつながっていることを伝えたい！
【愛知県立愛知商業高校】



楽しくスクミリンゴガイの生態を知り、なぜスクミリンゴガイが大量発生しているのか考えてほしい！
【愛知県立佐屋高校】



学習者の変容

【高校生へのアンケート結果より】

- ・疑問(課題)を見つける力、それを明らかに(解決)するためには何をどう調べたらいいかを考える力などの成長を感じた。
- ・皆で協力して、一つの目標を達成することの楽しさを知った。
- ・積極的に自分の意見が言えるようになった。

【顧問へのアンケート結果より】

- ・各イベントや他校との交流を通して、部長を中心に自ら考え行動するようになった。

成果指標

- ・高校生の環境問題に対する関心や環境意識を高め、課題発見能力や課題解決能力を育むことができたか。
- ・高校生が仲間とともに自分達で考えながら取り組むことで、主体性、協調性を育むことができたか。

学習の効果&主に育まれる力

- ・講義の内容から、今後の自分たちの活動の進め方を具体的にイメージしやすくなる。 **理解** **体感** **共働**
- ・自分の考えや疑問を発言する機会が積極性を育む。 **探究** **活用**
- ・調査・研究の内容や方向性を自分たちで決定することで、興味関心を高める。 **理解** **体感** **共働**
- ・ **探究** **活用**
- ・体験から自ら感じ、学ぶことができる。 **体感**
- ・専門家からアドバイスをもらえるという貴重な体験を通して、自信がつく。 **共働**
- ・発表に向けて自分のこれまでの活動を振り返ったり、発表を聞いた人から感想や質問等をもたらすことで、新たな気づきや課題を見つけることができる。 **理解** **体感** **共働**
- ・ **探究** **活用**
- ・学んだことをどのように伝えるのかについて、高校生が自ら考え、仲間との話し合いを通して、成果を教材という形にできる。 **理解** **体感** **共働**
- ・ **探究** **活用**

成果と課題

【成果】

- ・活動の中で、課題を見出し、それを解決するための調査・研究を検討して実践することにより、課題発見能力や解決能力が育まれた。
- ・自分の考えを積極的に述べ、仲間と協力しながら取り組むことができるようになり、主体性や協調性の向上につながった。

【課題】

- ・活動を継続・発展させる工夫を行う。

取組の名称等

令和2年度
かがやけ☆あいちサスティナ研究所




取組の内容

1 開所式で、学生、パートナー企業等との顔合わせ、活動や課題の説明等を実施（8月）

2 環境問題やSDGsに関する基礎講座を受講（8月）

3 研究所活動として、企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッション、チームミーティング等を実施（8月～10月）

4 成果発表本番に向け、中間発表会を開催（11月）

ねらい

○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育む。

○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促す。

工夫

○愛知県知事の激励により士気を高めるとともに、学生、パートナー企業、ファシリテーターとの顔合わせ、活動や課題の説明等を行い、研究所活動を円滑に開始できるようにする。
♡見通しOK

○今後の環境課題研究を行うに際し必要な知識や理解を深めるため、SDGsや課題解決の考え方の参考となる講座を実施する。

○昨年度の修了生から経験談や心構えを聞くことで、全体の活動をイメージしやすくする。
♡共感・納得
♡ゆさぶり

<課題研究>
企業訪問による現場調査や企業担当者とのディスカッションにファシリテーターを交えることで、学生のインプット及びアウトプットが大きくなるよう橋渡しを行う。
♡本物体験 **♡驚き・感動** **♡見守り**


<チームミーティング>
解決策を作り上げるためにチームミーティングを実施する。適切なタイミングでファシリテーターが助言を行うことで、学生の考えをうまく引き出し、議論が円滑に進むように支援する。

○成果発表会に向けたプレゼンテーション練習を実施し、出席者からのフィードバックを踏まえ、研究成果のブラッシュアップ等を行う。
♡共感・納得 **♡ゆさぶり**


学習者の状況


○これまでに習得してきた知識やスキルを社会でどのように活用していくか、まだ具体的なイメージがわいていない様子である。


学習者の反応

最初は不安だったが、学生同士で交流を行うことで、モチベーションの上昇や関係構築につながった！


環境やSDGsに関する知識が深まった！
 

現場に行くと、企業が実際にやっている取組を体感できる！


チームでミーティングを行い、解決策に向けた議論を深めていった。
時間が足りない！



練習会は他チームからの意見やプレゼンテーションの方法など、成果発表会に向けてとても参考になる！


成果指標


○持続可能な社会の実現のために必要な知識やスキルを身につけるとともに、それらを活用する能力を育むことができたか。

○参加した大学生、パートナー企業が、環境面における活動をより活発に実施するよう促すことができたか。


学習の効果&主に育まれる力


・全体のスケジュールを理解し、期間内にやるべきことを順序立てて具体的にイメージできる。


・これから解決策を検討していくために必要な知識やスキルを習得する。

・さらに必要なことについては自ら学習するなど、主体性を育む。


・実際に現地を調査し、企業担当者と議論することで、課題の意味を深く理解し、課題の解決がどのように持続可能な社会の実現につながるかに気づく。

・チームミーティングを重ねることで、解決策に向けた議論を深めると同時に、様々な視点で物事を考える力が育まれる。


・他者の意見により、新たな課題に気付くことができる。また、相手にわかりやすく伝える能力が育まれる。


5 成果発表会・修了式で、研究所活動の成果である解決策を提案（12月）

- パートナー企業に対して解決策を提案し、評価を受ける。
- 審査員による審査と合わせてオーディエンス賞を設け、来場者の参加性を高める。これにより、来場者に伝わりやすいプレゼンテーションを行うよう学生に促す。

成果実感

「なんでメニコンが日傘??」来場者にわかりやすく伝えたい!



・企業からの評価や審査員からの講評を受け、これまでの活動を振り返ることで、課題解決に必要なスキルや他者への伝え方の改善点を見つけることができる。



6 県内の大学等出張成果発表を実施（12月・3月）

- 学生自身の知識の習得や理解の増進、チーム内での研究だけにとどまらず、これまでの研究成果を発信する。

共感・納得

成果実感

ともに行動する仲間を増やしたい!



・研究成果を広く発信することで、自身の活動の成果を実感し、継続的なエコアクションの実施につながる。



令和2年度かがやけ☆あいちサステイナ研究所

- ・パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを実施し解決策を研究する。解決策を企業側に提案し、活動の成果を広くPRする。



学習者の変容

【学生へのアンケート結果より】

- ・企業や大人の方とも交流をすることにより、学生にはなかった視点や、物事を考えるときに必要な背景を考えなければならぬことを学ぶことができた。
- ・学生同士で上手くコミュニケーションを取ることや、どうすれば上手く伝わるかを模索して動くことができたのはとても良い経験だった。
- ・直接指導をいただき、環境に対する認識の甘さを痛感でき、自身の考えを改めることができた。

成果と課題

【成果】

- ・企業から提示された課題の解決策を研究し、提案することで、知識やスキルを習得するだけでなく、活用する能力が育まれた。
- ・本研究所での活動を卒業論文のテーマにするなど、継続的・発展的な取組につながった。
- ・企業が提案された解決策を採用し、実施する見込みである。

【課題】

- ・研究所活動が終了した後も、大学生とパートナー企業が継続的に関わり、環境面における活動ができるような仕組みの構築が望ましい。

取組の名称等

令和2年度環境学習コーディネーター事業



ねらい

環境学習を受けたい方と、環境学習を提供できる方の橋渡しを行うことで、県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習ができるようにする。

学習者（依頼者）の状況

環境学習ってどうやってやるのか分からない。
講師は誰に頼めばいいのだろう。
どうやれば効果的な環境学習ができるのだろう。

成果指標

県民、事業者、NPO、行政、学校等の様々な主体が各々のノウハウ等を活かしあい、環境学習の幅を広げ、より効果的な環境学習につなげることができたか。

取組の内容

1 環境学習に関する相談・講師の依頼

2 依頼内容に応じ、講師や施設等を提案

3 学習日程や学校等の授業の目的に合わせたプログラム等の事前調整

（コーディネーターの）工夫

学校、行政、事業者など依頼者の主体に合わせて、あいち環境学習プラザに相談するメリットを紹介したチラシを作成し、web ページ等で周知。
過去のコーディネーター事例を web ページに掲載。

依頼の目的や学習の目標、授業内容の希望等を詳細にヒアリングすることにより、ニーズに合った講師や施設等を複数提案。

依頼者と講師の双方と連絡を密にし、信頼関係を構築することで、講師が安心して授業に臨めるようにする。

依頼者に対して、一過性の授業で終わらないように、事前・事後の学習の実施や、他の教科、総合学習との連携について提案する。

講師が依頼者の求める内容をプログラムに取り入れることができるように、依頼者からヒアリングした内容を講師に伝えるとともに、より良い授業となるよう、伝えてほしい事や工夫する点も講師に伝える。

学習者（依頼者・講師）の反応


（依頼者）
「web ページに掲載されている〇〇の講座を自分の学校でも実施してほしいので、講師を紹介してほしい。」
（講師）
「生き物の授業を行う訪問先の学校を紹介してほしい。」

（依頼者の反応）
「授業の日程に合わせて、素早く良い講師を紹介してもらえたのでありがたかった」
「学習内容に合わせて講師の先生を紹介していただいた」


（依頼者の反応）
「しっかり打ち合わせができ、助かった」
「子ども達の現状や学習したことをお伝えでき、今後の見通しを持つことができた」
「こちらの希望をよく理解してプログラムを組んでいただいた」
（講師の反応）
「打合せは授業の方針を決める上で大いに参考になり、自信をもって臨めた」
「学校の要望、準備物など、こちら側からの連絡事項等を逐次伝えて下さり、スムーズに授業に臨むことができた」

学習の効果&主に育まれる力（取組の効果）


どのような講師を紹介してもらえるのか、どのような授業が作れるのか、何をしてもらえるのかイメージしやすくなり、コーディネーターへの相談がしやすくなる。



コーディネーターの持つ幅広いネットワークから学習内容に適した外部講師や活動場所を選定することができる。



事前・事後の学習の実施や他の教科との連携を図ることで、より効果的な環境学習とすることができる。
相談者の希望する学習内容と外部講師の持つプログラムの調整ができる。
事前に依頼者の希望を聞くことで、講師が安心して授業に臨むことができる。



4 講師を派遣し、環境学習を実施
ふり返り、改善提案の実施

コーディネーターが学習当日に立ち会い、講師と共にふり返りを行い、事後学習の提案やプログラム改善の提案をする。事後学習として、どうしたら学習したことを生活の中で行動につなげられるのか、グループワーク等で話し合う時間を設けるなどの提案をする。

(依頼者の反応)
「プログラムや授業づくりの参考になった」
(講師の反応)
「説明部分で飽きさせないように、もう一工夫をしたい」

ふり返りにより、事後学習やプログラム改善の提案をすることで、より効果的な環境学習につなげることができる。



■令和2年度環境学習コーディネート事業

- ・あいち環境学習プラザに窓口を設け、環境学習の連携・協働に関する相談業務や連携・協働先の紹介・マッチング等のコーディネート業務を実施。



学習者の変容

【依頼者へのアンケート結果より】
・外部の人材を活用する良さを知ることができた。外部の人材を活用する際のノウハウやコツを知ることができた。
・子どもから、「楽しかった」「もっとやりたい」という声があった。今回の授業で新たに学びを深めることができ、児童の意識が変わり、真剣に環境問題に取り組めるようになった。
・環境学習の幅が広がり、学習の積み重ねにつながっていった。
【講師へのアンケート結果より】
・小中学生への体験授業の重要性を普及したいので、また講師の依頼があれば引き受けたい。

成果と課題

【成果】
・学校における環境学習の機会の増加に加え、環境学習講師等のノウハウの有効活用を図ることができ、環境学習の幅が広がった。
・児童の意識が変わり、真剣に環境問題に取り組むなど効果的な学習につなげることができた。
【課題】
・本事業を知らない方が多いので、周知を工夫する。
・コーディネートの活用後も、依頼者がコーディネーターを頼ることなく、講師との関係性が保てるようサポートしていく。